

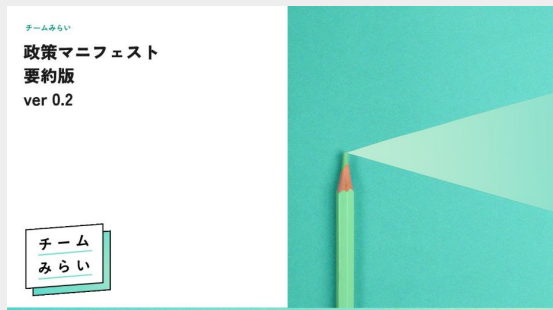
チームみらい 政策マニフェスト テーマ別解説版 くらしと行政編



本資料はチームみらいのマニフェストを政策テーマごとにまとめたものです。
概要をまとめた「要約版」、マニフェスト全体をご覧いただける「詳細版」も
ございますので、ぜひ合わせてご覧ください。

要約版

【要約版】



<https://speakerdeck.com/teammirai/timuraimanihuesuto-yao-yue-ban-v0-dot-2>

20ページほどのスライドでマニフェストの概要
をご覧いただけるものです

詳細版

【詳細版】



<https://policy.team-mir.ai/>

AIに質問をしたり、AIとおしゃべりをしながら
内容提案をしたりすることが可能です

マニフェスト テーマ別解説版

チームみらいの政策の柱

1. 新産業育成による所得倍増
2. 日本を世界一の「子育て先進国」へ
3. いびつな税・社会保障制度を未来志向で再構築
4. 立法の「見える化」
5. 「政治とカネ」問題に終止符を打つ
6. 誰も取りこぼさない社会福祉へ

チームみらいのマニフェストを構成する政策テーマ

政治と行政

デジタル民主主義

本資料

くらしと行政

経済財政

生活と社会保障

教育

子育て

医療

福祉

技術と産業

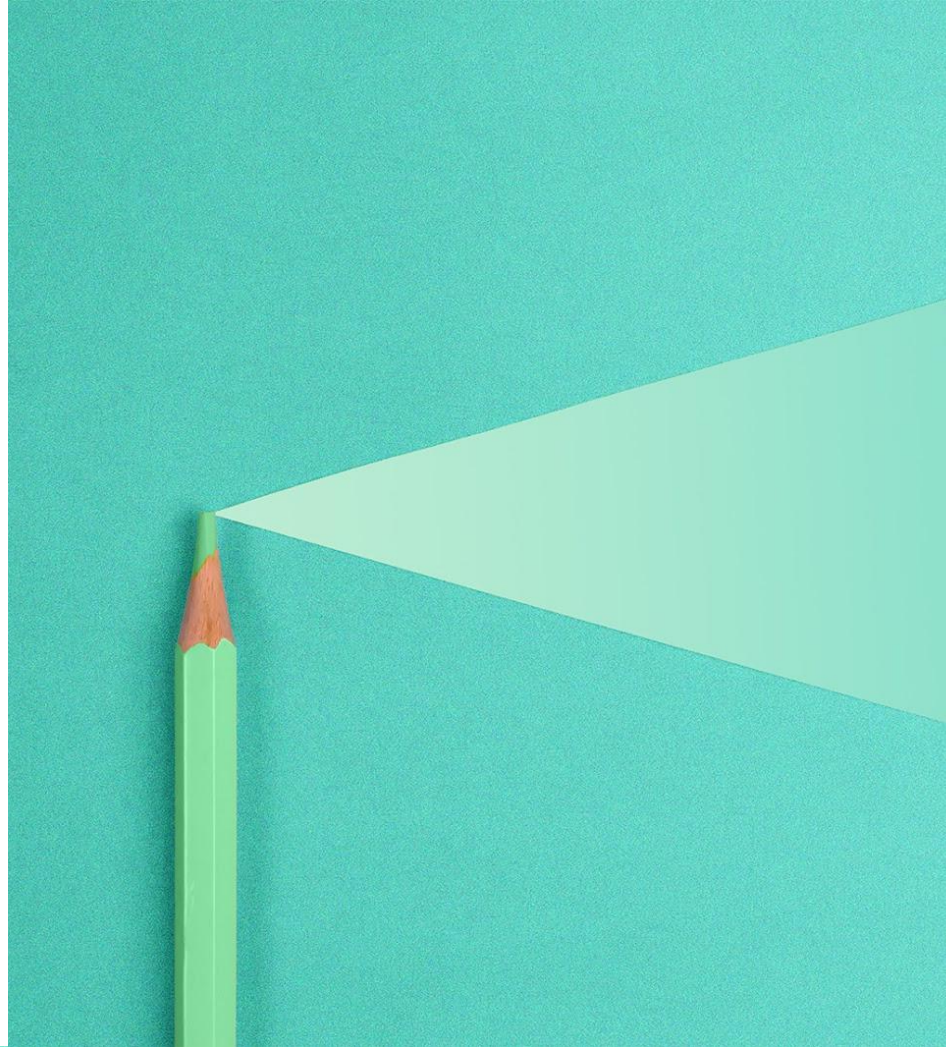
科学技術

産業

エネルギー

政策テーマ

くらしと行政



テクノロジーを活用して、だれにとっても使いやすいくらしと行政サービスを実現

1

政治・行政に
テクノロジーを
実装

政党自らが手を動かし、
実装し、公開し、政治をひらく

2

使いやすい
公共サービスの
実現

誰もが迷わず、負担なく、
支援や制度にアクセス

民間サービスのテクノロジー革新に対し、行政サービスの変化は遅れている

オンライン化率

35%の自治体で
国民生活に直結する手続きが書面・窓口前提

子育て・介護関連26手続きを
オンライン化推進も
まだ道半ば

自治体DXの現状

行政のDX推進は、
40%の職員が
民間に対して遅れを実感

特に文書管理業務に
工数をかけており、
紙・データの連携に
課題感あり

デジタル政府調査

OECD調査で、
31位 / 33 カ国
と低位

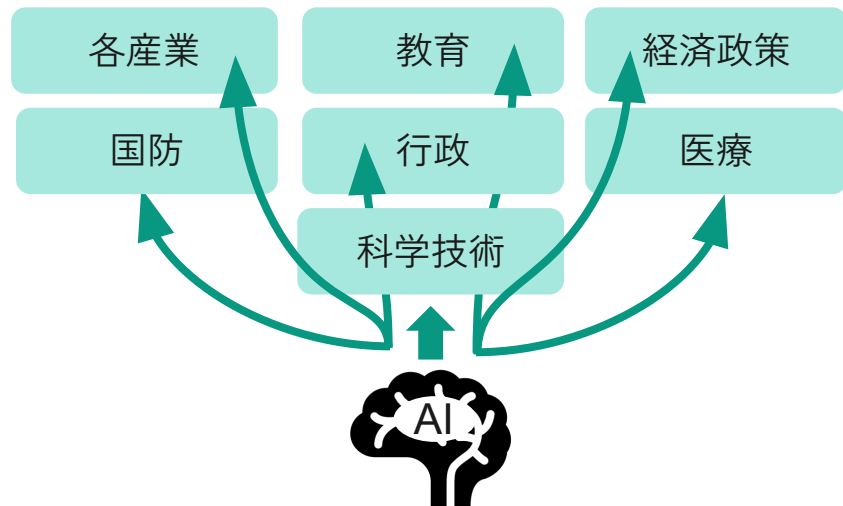
総合点0.483<OECD平均0.605

特に、利用者視点の
項目が低評価

国会・行政においてテクノロジー・AI分野の重要性が増すも、専門家と予算が不足

各領域でAI活用が進んでおり、国会の幅広い領域でAIの知見が必要

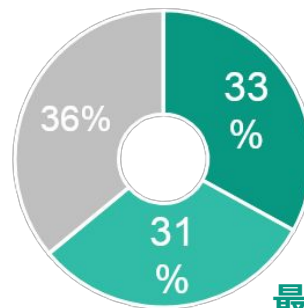
各領域でAI活用が進んでいる



行政の場において、テクノロジー・AIに関する予算と専門家が不足している

行政におけるデジタル化の障壁

その他



予算化が難しい

デジタル化には初期必要と継続予算が必要

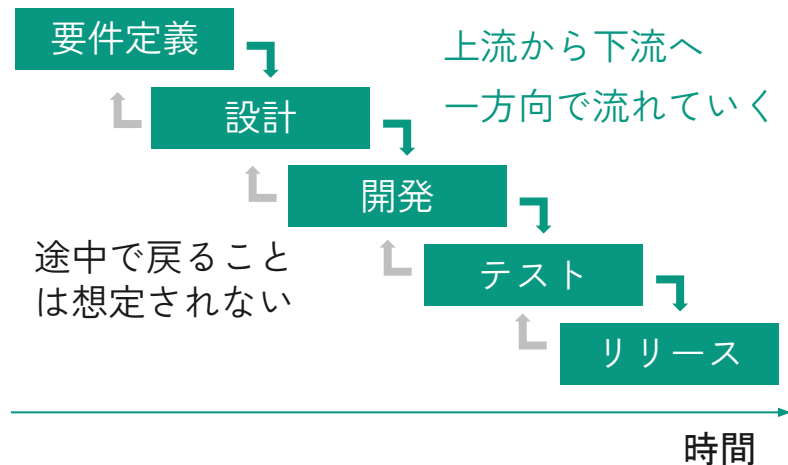
最適な人材がない

省庁自治体ごとに専門家を抱えることは難しい

行政のITシステムの発注は柔軟性が低いため、急速な時代変化に対応できていない

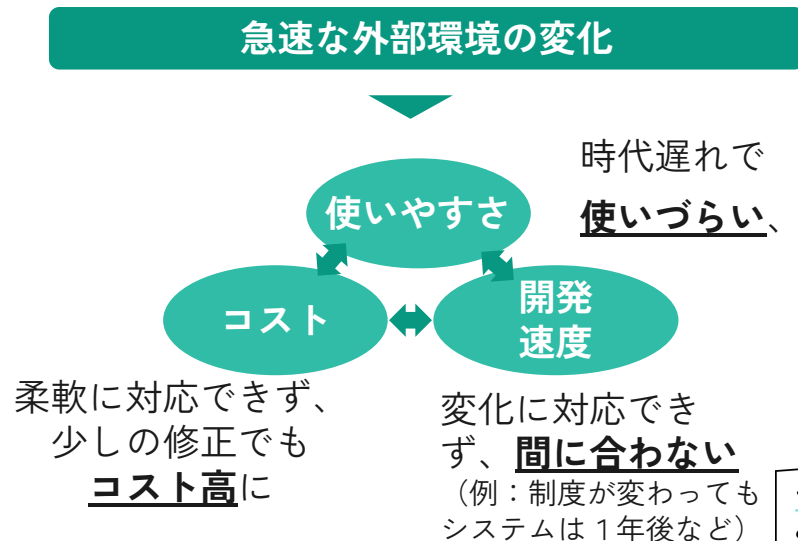
工程を上から順番に厳密に手順を踏みながら開発するアプローチであるため、

行政システム発注～開発の流れ



テクノロジーや法制度の変化に対して、柔軟な対応が難しい構造になっている

行政のITシステム開発で起きていること



永田町にエンジニアチームを設置することで、国会・行政のデジタル改革に貢献

国会（永田町）に

チーム
みらい



エンジニアチームを設置（10名程度※）

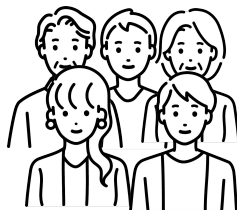
デジタル政策の構想段階で、
まず試作品を開発し、早期に検証
検証済みのツールやそのコードは、
公開しだれでも利用・改善可



行政・自治体・他党には、

- ・ ソフトウェアをオープンソースで公開、開発する

市民のみなさまに向けては、



- ・ 政治資金の流れを公開
- ・ オンライン熟議の場の開発・提供
- ・ ブロードリスニング（広く意見を集める）ツールの開発・提供 等

チーム
みらい

政治資金を見える化

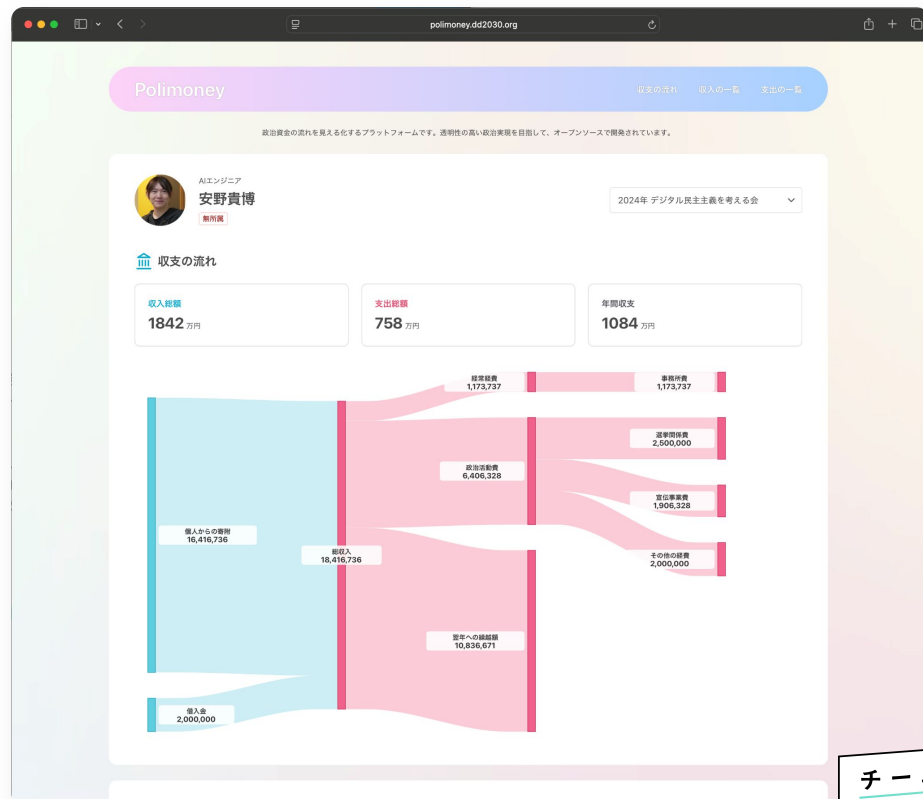
参加型コミュニティが運営する有志のプロジェクト「デジタル民主主義2030」の開発する「Polimoney」を活かし、国民が政治資金の流れを容易に追跡・分析できる仕組みを導入。

Polimoney

政治資金の透明化を実現することを目的としたデジタルツール。

設計図となるコードが公開されており、誰でもアクセスすることが可能。

将来的には与野党全体での使用を推進することで政治の信頼回復に貢献します。



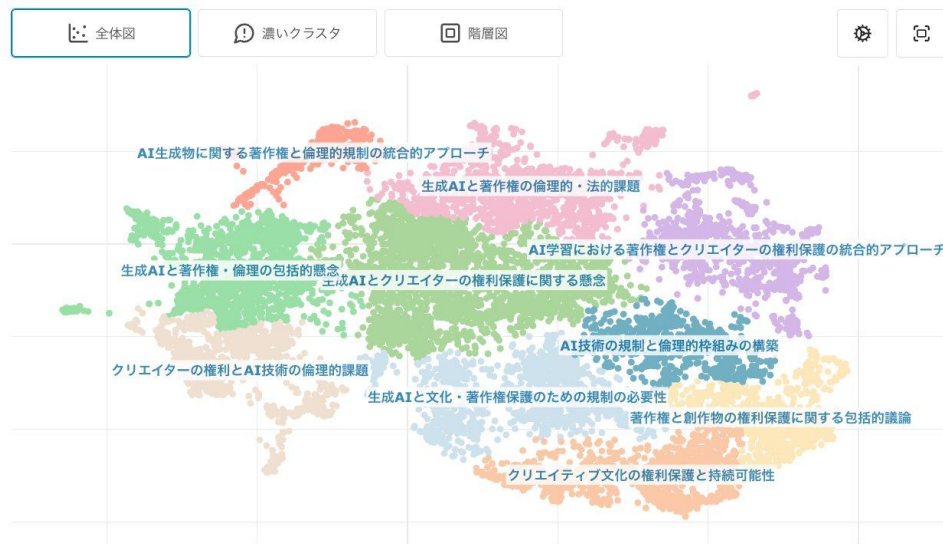
広く意見を受け止める仕組みの構築

「デジタル民主主義2030」の「広聴AI」を活用し、パブリックコメントやSNSなどから集まる意見を分類・整理し、政策検討に活かせるよう継続的に運用・改良します

広聴AI

ブロードリスニングを実現するためのツールで、アメリカのNPOが開発した「Talk to the City」をベースに、日本の政治家や自治体の実務に合わせた機能改善を反映したもの

ブロードリスニングとは、多様な市民の声を広く収集・可視化し、意思決定に役立てようとする取り組みです。



オンラインの熟議の場を展開

イメージ

みんなで政策議論プラットフォーム (仮)

Open Chatでの会話

- 自動運転車の公道走行、どう思います？
- 最近、都市内で実証実験始まったよね
- 人が運転するよりも安全な気がするけど
- 地方で実証やらないと意味ないと思う
- 地方の高齢者が安心して移動できるといいよね
- 人間の車と自動運転車が混在する状況が一番危険
- 安全性が確保されるなら試してみたいけど
- 高齢者の免許返納問題は待ったなです
- 東京で生活してるとその実感がこないよなあ
- 難しい〜

SNSでのポスト

- XXXXX @Kyle 12min
自動運転の車が横断ったけど、なんかこっちが緊張したわー安全なのか？
- XXXXX @Albert 7h
公道で自動運転テストやってるのすごいけど、ちょっと怖くない？
- XXXXX @ABABA 12h
いろいろ結局、ハードウェアとか更新必要だし、車両価格どんどん上がりそうなのも
- XXXXX @Hawks 23h
こういう場があると、車好きな人はどう思うんだろう？運転する楽しみなくなりそう
- XXXXX @DigId 2days
公共交通機関があまり発達してない地方とかでは、自動運転車が普及したら生活がすごく楽になりそう。高齢者や免許返納した人たちにとっては本当に助かる技術だと思う
- XXXXX @Domey 2days
自動運転車が事故を起こしたときの動画が拡散されがちだけど、よく考えたら人間の運転ミスもいっぱいあるんだよね。技術には最初から完璧を求めちゃって、少しずつ改善していけばええやん
- XXXXX @Domey 2days
運転めんどすぎるので助かり

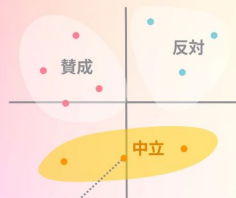
動画サイトでのコメント

- 292件のコメント
- 人間よりも事故のリスクが減るなら早く普及してほしい！
- 技術はすごいけど、まだ信頼できる段階ではない気がする。
- 人間と自動運転車が混在する状況が一番危険そう
- タクシー運転手とか労働者への影響が甚大なのは説
- 技術は進んでも、法律が追いつくのに時間がかかるよねいつも
- Aが人間より安全なら、早く法律整備してほしいなというお気持ち
- 未来感やべ〜 待望してます
- ハッキングのリスクとかも考えないといけないからね

AIによって生成された議論地図

公道での自動運転について

賛否 論点1 論点2



中立の代表的意見

- 自動運転は交通事故を減らす可能性があるが、技術の課題やシステムの不具合が懸念される。
- 渋滞の改善が期待される一方で、人間の運転との混在で新たな問題が生じる可能性がある。
- 移動の利便性が向上する一方で、運転に関する職に従事している労働者への影響が懸念される。

1 意見を広く収集し...

- パブリックコメントに留まらず、SNSでのポスト、動画サイトでのコメントなどからも国民の声を広く収集

2 議論地図を生成して最終的な意思決定を助けます

- 収集した声を分析し、どのような意見・論点があるかを整理・可視化

チーム
みらい

チームみらいでは『喋れるマニフェスト』を公開

詳細版マニフェスト

① マニフェストを見ながら

② AIチャットで質問や議論

- 疑問点はAIに質問
- 意見があればAIとの対話を通じて提案の形にまとめて提出
- 提出された意見は反映状況を追跡可能

チャット

表示中のドキュメント「16_ステップ1 デジタル民主主義」について質問や意見を入力してください。または「ごんにちは」と挨拶してみましょう！

メッセージを入力してください（Shift+Enterで改行） ...

送信

policy / 16_ステップ1 デジタル民主主義.md

本マニフェストは作成途中版であり、内容は今後変更の可能性あります。
ご意見・ご指摘をもとに、より良いものへと進化させていきます。詳しくはこちら

6. デジタル民主主義

ビジョン

今の投票による間接民主主義は数百年前に出来上がった制度です。当時はインターネットもSNSもAIもありませんでした。今のデジタル技術を使うことによって、より多くの人がより深いレベルでコラボレーションをすることが出来るようになると思っています。

また、デジタルツールを導入するといっても、最終的な意思決定をAI任せや多数決任せにするというわけはありません。私たちは、政治的意思決定は責任が取れる主体である人間が行うべきであると考えています。

1) AIを活用したパブリックコメントの機能不全の解決

現状認識・課題分析

問題: パブリックコメントという意見募集システムがあるが、機能不全に陥っている状態

3月末より複数のメディアで、パブリックコメントにおいて提出される意見の数が「異常件数」とであると報道があった。背景には、何個も同じ趣旨の投稿を繰り返す多数派工作などの存在があることがわかつ

2

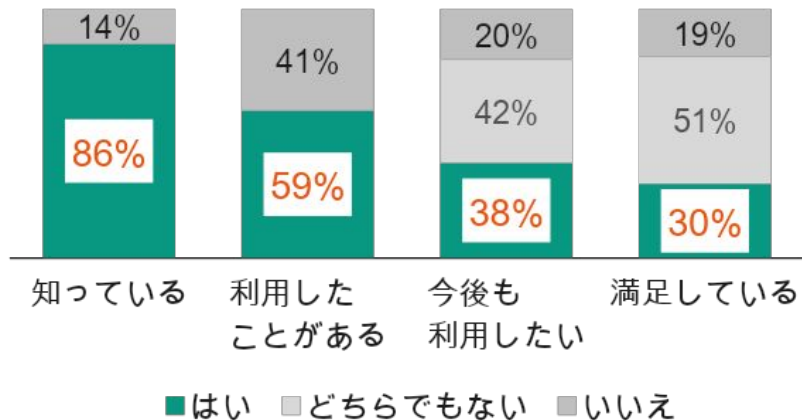
1

チーム
みらい

日本の行政サービスの使いやすさは依然として低く、 必要な人に届いていないことも

デジタル行政サービスは、認知はされているものの、満足度は低い

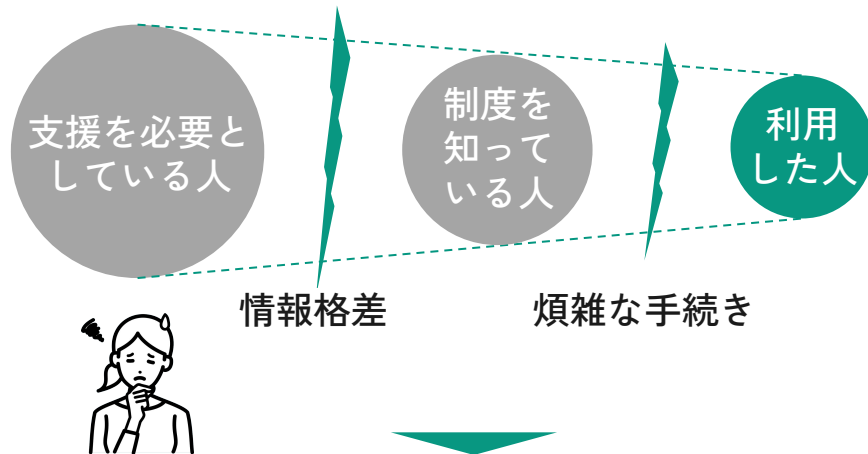
質問：デジタル行政サービスを、



出典：デジタル庁

※行政サービス等の利用に際し、個人が自ら申請を行うことを原則とする考え方

本当に必要な方に、行政サービス・支援が届いていない現状

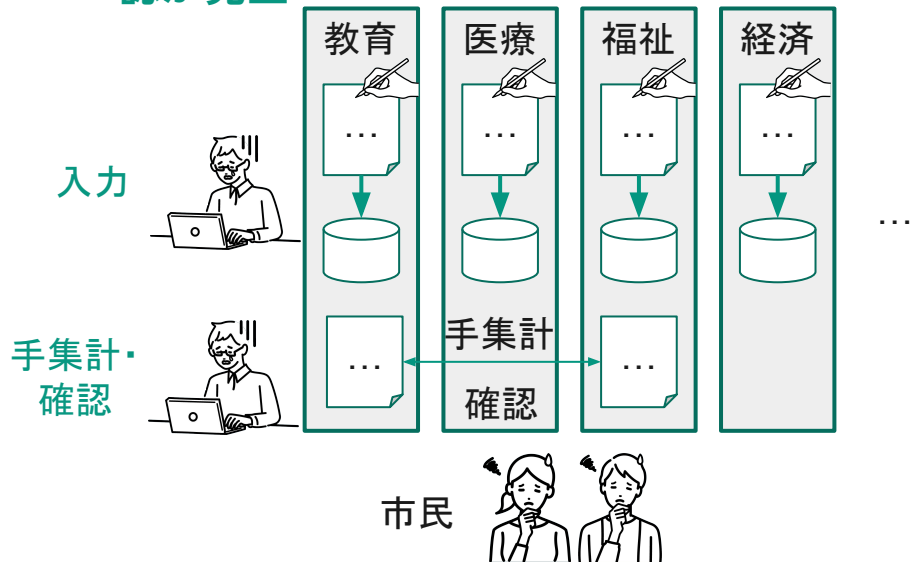


ほとんどの支援は自己申告
困っていても支援が届かないことも

チーム
みらい

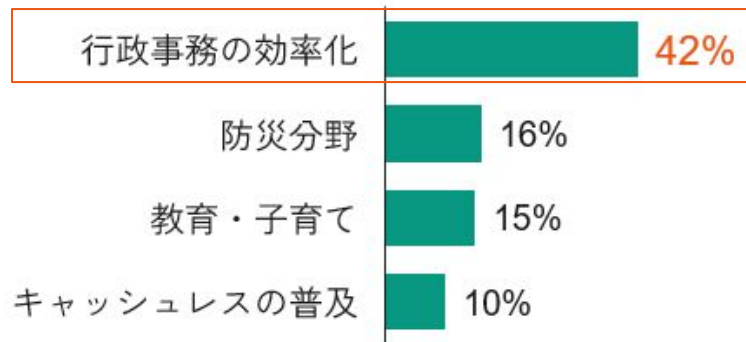
行政内部では非効率な業務が多数あり、改善余地が大きい

部署ごとのシステムが関連データの分断につながり、窓口での多重入力・確認が発生



行政事務の効率化に対して、テクノロジーは大きく貢献できる

デジタル化に最も期待する分野は、



アナログ規制のデジタル化による
コスト削減効果として、**2.6兆円**という試算も

使いやすい行政サービスを実現

行かせない

- 行政手続のオンライン化の推進
- 電子投票・ネット投票の推進

書かせない

- マイナンバーの活用による自動入力
- 各省庁と自治体のデータベース連携を推進

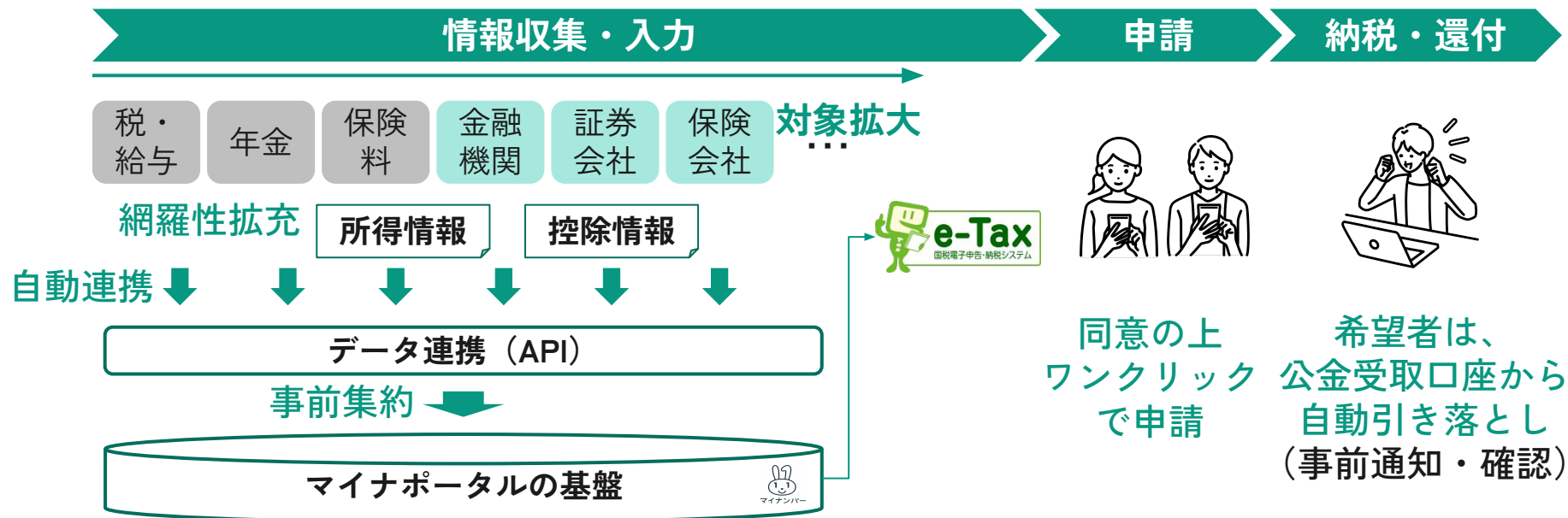
待たせない

- オンライン化を推進し、極力訪問を不要に
- 訪問が必要な場合の混雑状況のリアルタイム配信

迷わせない

- AIを活用した総合案内の導入加速
- ワンクリックでの確定申告の実現
- プッシュ型の情報・支援の提供

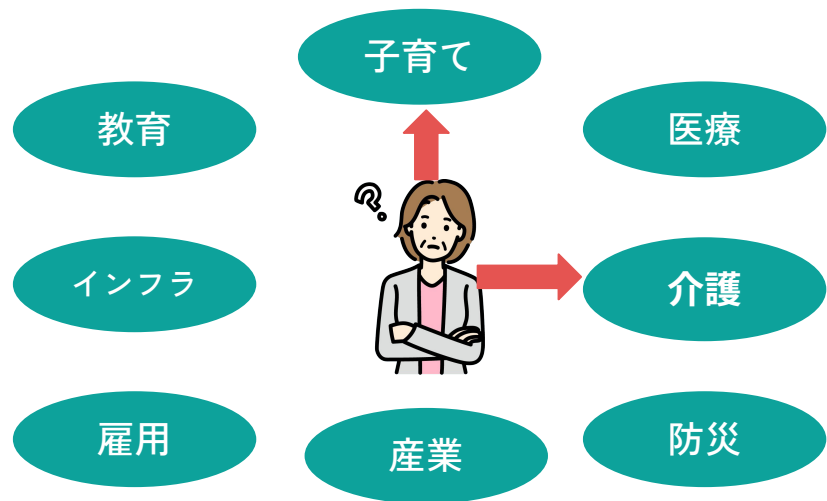
手続きの煩雑さにより納税者の負担が大きい「確定申告の自動化」に取り組む



この基盤活用が、より合理的な制度運用「なめらかな税・社会保障制度」の第一歩に

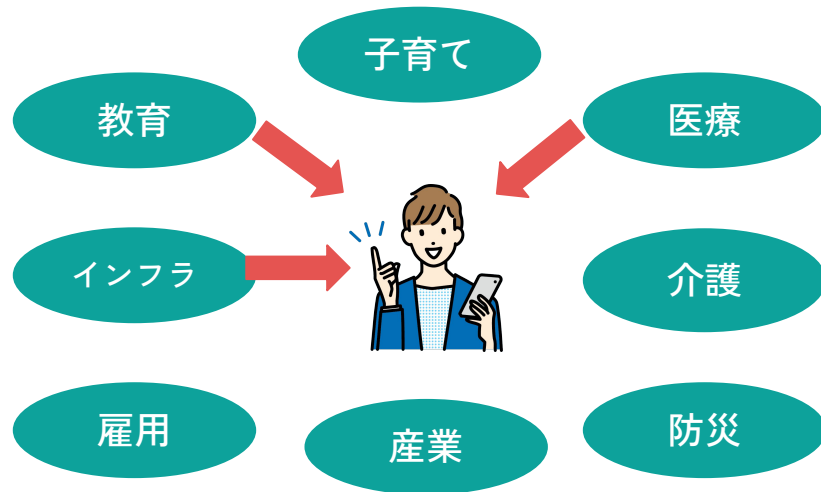
誰も取り残さないプッシュ型の情報・支援の提供

これまでの行政サービスのつかいかた



大量の情報から自分に合ったサービスを探す必要
＝面倒・サービスの漏れ

今後は・・・
プッシュ型で必要な情報・支援が届く

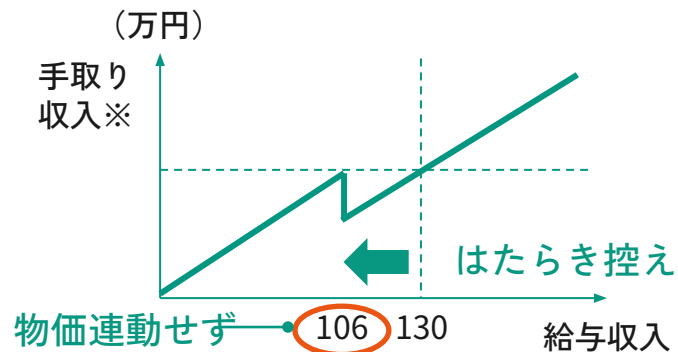


本人情報や事前に入力した興味・関心から
関連する情報支援をプッシュ型で提案
(アプリやメールでの通知を想定)

ルールを連続的・自動的に調整する仕組みにより、インフレや格差に柔軟に対応できる「なめらかな税・社会保障制度」運用を実現

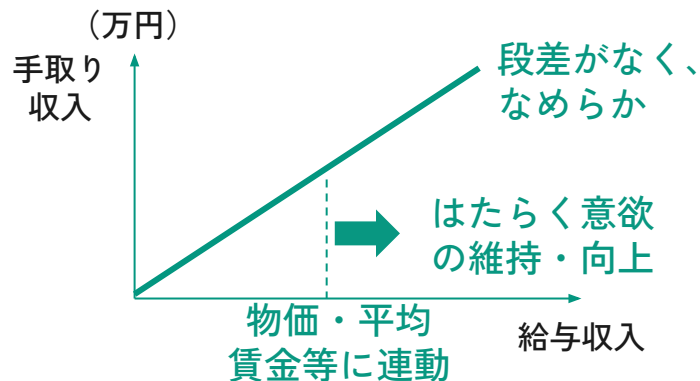
現状課題

- ・ 適用の基準値の「段差」が行動をゆがめる
- ・ 制度がインフレに対応できていない
- ・ 改正の都度、企業負担が大



チームみらいは

- ・ 所得に応じた「なめらかな課税・給付」
- ・ 指数連動の自動改定
- ・ 税額・給付額の計算APIを公開し、官民のシステム等の自動更新を支援



永田町にエンジニアチームを設置し、使いやすい公共サービスの実現していくことで、なめらかな税・社会保障制度移行への基盤を作る

ステップ1

デジタル時代の
当たり前をやりきる

ステップ2

変化に対応できる、
しなやかな仕組みづくり

ステップ3

長期の成長に
大胆に投資する

政治・行政に
テクノロジーを
実装

永田町にエンジニアチーム

使いやすい
公共サービスの
実現

使いやすい公共サービスの
実現

確定申告の
自動化

プッシュ型
支援提供

なめらかな税・
社会保障制度

チー ム
み ら い

について

テクノロジーで 政治をかえる。 あなたと一緒に 未来をつくる。

チー ム
み ら い

テクノロジーは、難しい技術のことじゃない。

できなかったことを、できるようにする方法のことだ。

私たちはテクノロジーで、政治の透明化・効率化を実現する。

それは今すぐできる。そしてあなたの生活を着実に改善できる。

政治は、限られた人のものじゃない。

本来、私たち一人ひとりの手の中にあるべきものだ。

私たちはテクノロジーで、政治とあなたの距離を近くする。

もっと気軽に参加できる、もっと参加したいものへ変えていく。

未来は、理想を語るだけじゃ変えられない。

今をひとつずつ改善することでしか、良くできない。

私たちは自分たちの手で、今すぐできることを今すぐ実行する。

あなたと一緒に一歩一歩、未来は明るいと信じられる国へ。

新党・チームみらい

テクノロジーで政治と未来を良くすることを目指す新党です

**私たちは、
手を動かす。**

現場視点で建設的なプランを考え、
自らの手で素早く実行します。

**私たちは、
オープンにする。**

意思決定も、お金の流れも、プロセスも。
透明に、誠実に、信頼とともに歩みます。

**私たちは、
誰かをおとしめない。**

他党も政治家も、日本の未来をつくる仲間。
協力できる箇所を探し、一緒に進みます。

**私たちは、
分断を煽らない。**

感情ではなく、データと事実で語ります。
批判より提案を。分断より解決を。

**私たちは、
何事も決めつけない。**

正解はひとつじゃない。多様な声に耳を傾け、
より良い答えがあれば、柔軟に改善します。

チームみらいは、パイの再分配だけでなく、成長を目指します

マニフェストでは、3つのステップで成長を目指す政策を掲げています

ステップ1：
デジタル時代の当たり前をやり切る

デジタルにおける「当たり前」を実行するだけで成果が出る「のびしろ」を発見し、すばやく実行します。

ステップ2：
変化に対応できる、しなやかな仕組みづくり

硬直的な現在の税制、教育、医療制度を、変化に迅速に対応できるしなやかな制度に再構築します。

ステップ3：
長期の成長に、大胆に投資する

前ステップで生み出した余剰資金を子育てや新産業創出、科学技術、文化振興に持続的な投資を実行します。



党首・安野たかひろ

1990年生まれの34歳

AIエンジニア・起業家・SF作家

2024年、東京都知事選に出馬。15万4638票を獲得。
東京都の外郭団体「GovTech東京」アドバイザーと
して、自治体などのデジタル化を支援。デジタル庁
デジタル法制ワーキンググループ構成員。

東京都生まれ。東京大学工学部システム創成学科卒。在
学中、AI研究の第一人者、松尾豊氏の研究室に所属し、
機械学習を学ぶ。ボストン・コンサルティング・グルー
プを経て、AIスタートアップ2社を起業。

チームみらいとつながろう



[@anno_teammirai](#)



[@安野貴博](#)



[@team_mirai_jp](#)

ありがとうございました